



説明不足を補います ①

第17号から第28号までの12回シリーズで、『学びの個別最適化』について書きました。

自己の生き方・あり方に迫る学びが、個別最適な学びの終着点であると何度も書いてきました。シリーズの最後は、『無意味なノルマ』になっている自学ノートではなく、

私は、小学校、中学校、高校と、ずーっと 自学ノートが、続けられる学校にしたいのです。

と、しめくくりました。



あのときは、自分なりに伝えるべきことは伝えられたと思っていました

が、読み返してみると、**自学ノート**のことにフォーカスしすぎていたためあって、学びの個別最適化についての本質に迫れていなかったことに気づいていたので、部活動シリーズを終えたら『自己の生き方・あり方に迫る学び』について、じっくりとアプローチしたいと考えていました。

また、こんなレスポンスをいただきました。

『結局、自学ノートがいいのか悪いのかがはっきりしない!』

まず、その答えです。

今現在、公立中学校で実施されている自学ノートは『無意味なノルマ』が、ほとんどであって、それは「家庭学習をしていました」と先生に示すためのものであり、それ以上の価値はありません。だから本気でテストの点数を上げたいならば、学校からの〇〇ページ・・というような課題(ノルマ)をとにかく済ませてから本気でテスト勉強をするという状況になっています。テスト前なので自学ノートの提出はいらないという学校まであるのは、それをはっきりと証明しています。

ゆえに、今現在、公立中学校で実施されている自学ノートのほとんどは今すぐ止めるべきです。

私は、小学校、中学校、高校と、ずーっと 自学ノートが、続けられる学校にしたいのです。

この意味は、もうおわかりでしょうか。

「家庭学習をしていました」と先生に示すためのものではなく、提出を求められるものでもない、自分の好きなことを、自分の力と友だちの力と先生の力をかりて、もしかしたら、将来ずーっと追い求められるテーマを見つけられたら最高だし、やっていて飽きたら、もっと面白いことにどんどん乗り替えていってもいいし、学校と全く関係のないことだってもちろんオッケー。それが**自学ノート**なんです。

こんな感じで、本音をそのまま書くことは、いろんな誤解を生んでしまうので、6年間公立中学校の校長をしていた時も、文章にするときは、「私の本音を読み取ってくださいね」と願いながら書いていたところもあります。

それでも西南部中学校校長のときは、おそらく新聞の見出しだけしか読まないで、「あの校長はおかしい」と思われていた人にたくさん出会いました。

私が本気で先生たちと取り組んだあの学校改革を、いまだに否定する人がいます。じっくり話をさせてもらったら、納得し、賛同してもらえるという自信はあります。しかし、はじめから否定している人は私の話を聞いてくれようとはしません。平日の13時に放映された北陸朝日放送の特集番組をわざわざ録画してくれるはずはありません。観ていた風を装って話をされた人もいたほどです。

ということで、11日にA日程入試を控えた今週は、これまでの説明不足を補う一週間にしたいと思います。そして、これからは、こんな説明不足の私を信じて、11日の受験を決意してくださった保護者の皆さんのために、もっとストレートに語っていくことにします。誤解を恐れなくて。



中等部の理念

新たな価値を創造する力

対立やジレンマを克服する力

責任ある行動をとる力